

授業概要

少子高齢化は、家族生活や家族形成に影響を与えるものであるが、その一方で、家族に関する意識・規範などが、少子高齢化の要因・背景として重要な意義をもっているのが日本社会の特徴である。このような動向を踏まえ、人口高齢化と人口減少、少子化と夫婦出生力、未婚化・晩婚化などに関する基本的な知識や実態を把握しながら、「少子高齢化」と「家族」の関係性について講義する。

授業計画

第1回	講義のねらいと全体像
第2回	人口高齢化（1）——老年人口割合の推移と展望
第3回	人口高齢化（2）——長寿化による家族生活への影響
第4回	人口高齢化（3）——人口移動と老年人口割合の関係性
第5回	人口高齢化（4）——高齢者の居住形態と介護における地域差の実態
第6回	人口の全体的動向について——人口転換モデルと人口ピラミッド
第7回	少子化（1）——少子化の定義と推移
第8回	少子化（2）——少子化の要因
第9回	少子化（3）——少子化対策の展開
第10回	少子化（4）——少子化を克服できない要因・背景
第11回	少子化（5）——未婚化の推移と現状
第12回	少子化（6）——未婚化の要因と未婚者像の妥当性に関する検討
第13回	少子化（7）——未婚者像と未婚化対策
第14回	少子化（8）——女性の社会進出とM字型就労
第15回	少子高齢化社会から人口減少社会へ
第16回	定期試験

到達目標

人口高齢化の要因・特徴と家族生活への影響について理解する。
 少子化の要因・特徴と女性の働き方における実態を把握する。
 未婚化・晩婚化の要因・特徴と家族観や結婚活動における実態を把握する。

履修上の注意

私語、無断の出入り、他の受講者に迷惑となる行為、受講中にすべきでない行為等については減点となる。講義開始後30分までを遅刻とし、それ以降については欠席とみなすが、公共交通機関の遅延など特別の事情がある場合には考慮する。
 また、家族論Ⅰを未履修の場合でも、本講義を履修することは可能である。

予習復習

参考文献や新聞などから、取り上げるテーマやキーワードについて簡単な予備知識を備えておく。その日に学習した内容を、前回までの内容とのつながりを意識しながら振り返り、整理しておく。

評価方法

成績は、定期試験と平常点を総合的に勘案して評価する。
 配分は、定期試験50%、受講態度や取組姿勢等25%、考察作業プリントや提出物25%である。

テキスト

清水浩昭ほか著 『少子高齢化社会を生きる』 2016年 人間の科学新社